

「美唄市農業ビジョン」（素案）に対するご意見と市の考え方

○パブリックコメント手続きによる意見提出

～3項目（1名）の意見提出があり、ご意見に対する市の考え方を整理しました。

区 分	意見の要旨	市の考え方
第7章 農業・農村施策の展開方向	・「農商工連携」とあるのを「農商工消費連携と協働」と消費者を加えてはどうか。 ・人口減少の影響と思わせる事が、商工関係の売上げ減、交通関係の合理化など数多くありますので、そこで消費者を含めた地産地消の結びを強くしては。	・本ビジョンは、「びばい未来交響プラン」後期基本計画を上位計画、「美唄市産業振興計画」を中間計画として、その下に策定しており「農商工連携」は同後期基本計画の分野別計画第1楽章・産業づくりの中の一つの項目となっています。このため各計画と整合性あるものとするため用語としては「農商工連携」を用いています。 ・なお、本市農業の目指す姿は「力強い農業が営まれ 市民や消費者から信頼される産地づくり」を掲げ、安全・安心な農産物を、市民や消費者に供給し、信頼される産地へと進んでいくこととしており、市民や消費者の皆さんとの連携や協働が必要であるとの考え方は、第7章の「2 消費者に信頼される産地づくりの推進」などにも盛り込んでいるところです。 ・消費者のニーズが多様化する中、地域の基幹産業として商工業の方々とも連携し、地域資源を活用した新しい商品やサービスとして、消費者の皆さんに供給することや、地産地消、食育などの取り組みの中で、市民や消費者の皆さんに美唄の農業・農村についてより一層ご理解いただき、連携・協働の取り組みを推進していきたいと考えております。
その他 (労働力確保の組織づくり)	・農業の労力不足を補うのに、シルバー人材センターなどとは関係なく、1時間600円とか700円で年寄り、障がい者の方々に有償ボランティアの組織を市で作ってはどうか。 - 農業と消費者のつながりの例として、他市町村他市町村にも例があります。 - ボラバイトは他にも活用できる例として、市の施設の周囲の清掃（ゴミ拾い、草むしりなど）、交流人口を増やすにしても市長は、市職員に来庁者に挨拶をしながらと指導していると言うが、街中をきれいにするのももてなしであると考えてるが。	・農業における労働力の不足は、適期作業の実施や高収益作物の生産維持・拡大に向けて課題となっており、本市農業が将来にわたって発展していくうえで解消を図っていく必要があります。このため、水稻生産に直播栽培を導入した省力化の取り組みや高性能農業機械など機械力を利用した作業効率化の取り組みが行われているほか、農協による無料職業紹介、シルバー人材センターや福祉施設との連携による労働力の確保など様々な取り組みが行われています。 ・また、農家戸数の減少や農業者の高齢化も労働力不足の要因となっていることから、多様な担い手の育成確保に向けた取り組みが必要と考えており、第7章の「1 強い農業経営基盤づくり」、「(3) 担い手の育成・確保や女性・若手経営者の経営能力向上の仕組みづくりの推進」にもあるとおり、新規就農者の確保や法人の育成、農作業を受託し地域や生産を支えるコントラクター組織の育成にも取り組んで行く考えです。 ・各農協と各種団体等が連携し取り組んでいる労働力確保の取り組みの成果も出ておりますので、まずはこうした取り組みを一層推進しながら、様々な対応策について関係機関・団体とさらに検討してまいりたいと考えております。